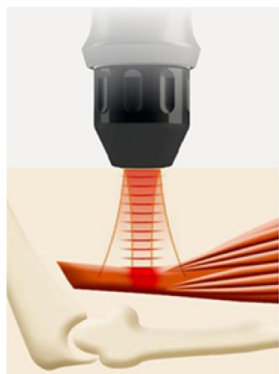


体外衝撃波治療

拡散型体外衝撃波疼痛治療装置 MASTERPULS(マスターパルス MP100)



Radial Shock Wave (R-SW)



体外衝撃波治療とは？

衝撃波とは、音速を超えて伝わる圧力波のことです。

衝撃波を皮膚の上から幹部に照射する方法で痛みを感じるとる神経を変性させたり、新生血管の再生を促すことで慢性的な痛みを軽減する治療です。

体外衝撃波装置内に水を蓄えており、水の中で衝撃波を発生させ体内に照射します。

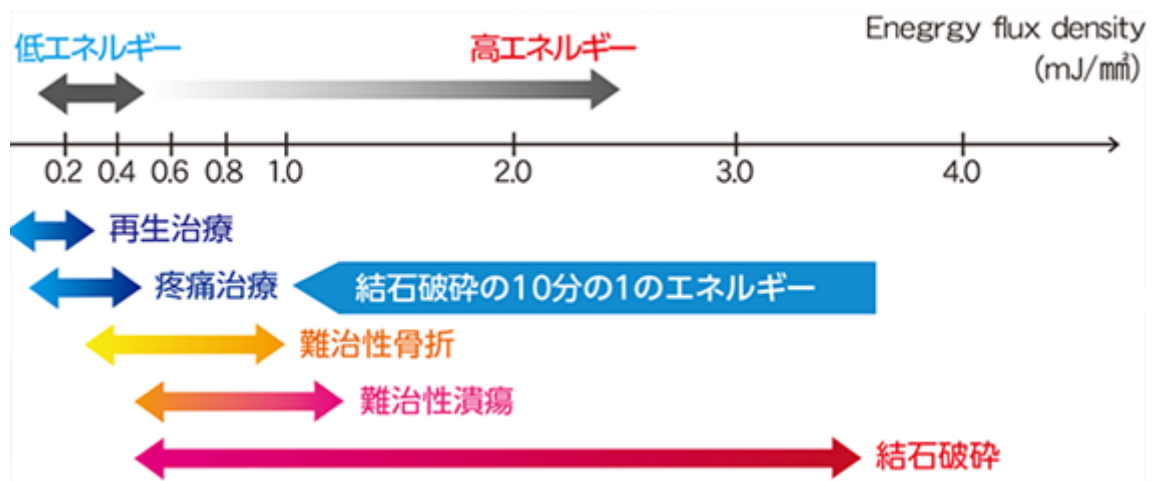
その際、水分を多く含む筋肉と脂肪は通過し、硬い腱付着部、腱の変性部分、骨に当たると、衝撃波が屈折・反射しエネルギーが放出されるため、体内深くにある患部のみピンポイントに当てることが可能になる治療法です。

日本国内外での学会や論文において 60～80%程度の有効性が証明されています。

全国で導入が進んでおりますが、山梨県エリアではまだ数台しか導入されていません。

この体外衝撃波治療法ですが、元々は腎臓結石や尿管結石など体内にできた結石に照射することで、切開などの外科的手術をおこなわずに結石を破砕できる治療方法として主に利用されてきた歴史があります。

最近海外ではこの体外衝撃波治療を、低出力の衝撃波として利用することで、足底腱膜炎・テニス肘・ゴルフ肘など多くの疼痛性疾患の除痛を目的とした治療に応用するようになった、整形外科領域では新しい治療法になります。



この治療法は、体操男子の内村航平選手が、世界選手権直前に、右足前距腓靭帯帯損傷を短期間で治療するために取り入れたことでも知られています。

なぜ、体外衝撃波治療で疼痛が軽減されるのか？

<短期的な除痛効果>

1. 痛みを誘発している自由神経終末を減少させます。
2. 痛みに関わる神経内の伝達物質(CGRP、Substance-P)を減少させ、神経中枢への痛みの伝導を抑制します。

<長期的な除痛効果・組織修復作用>

1. 血管新生、コラーゲン産生をうながす成長因子を産生する効果があり、腱付着部における血管の新生を誘導し組織修復を促します。
2. 疼痛伝達物質（照射後の Collagen 産生の亢進による腱の再生・照射による TGF- β 、IGF の産生亢進による腱の再生）を減少させる効果があるため
3. 炎症の原因となっている MMP や IL などのサイトカインと言われる物質の発現が抑制されることも報告されています。

※一般的に2～3回の繰り返し治療で効果が確認されています。

※体外衝撃波による治療は完全なる除痛を保証するものではありません。また、患者様により治療効果や治療期間が異なりますが、治療効果は、60～80%と報告されています。

体外衝撃波治療の適応

慢性的な腱障害（腱付着部炎・腱炎）

- 足底腱膜炎
- アキレス腱炎
- アキレス腱付着部炎
- 上腕骨内側上顆・外側上顆炎（テニス肘・ゴルフ肘）
- 石灰沈着性腱板炎（石灰性腱炎）、腱板炎
- 膝蓋腱炎（ジャンパー膝）
- 大転子部痛

骨修復機能異常（骨折・軟骨損傷）

- 疲労骨折
- 偽関節
- 骨折の遷延治癒
- 早期の骨壊死
- 早期の離断性骨軟骨炎

その他、国内・国外の学会、研究会等では、小児骨端症（オスグッド病、シーバー病など）、ばね指、各種腱鞘炎、有痛性外脛骨、二分膝蓋骨、シンスプリントなどにも有効であると報告されています。

副作用やリスクについて

基本的に副作用はありませんが、以下の事が起こる可能性があります。

- 腫れ
- 発赤
- 内出血
- 湿疹
- 治療中 及び 治療後の痛み
- 感覚異常などの神経障害

※いずれも数時間～数日で軽快します。

体外衝撃波治療をご希望の方へ

リハビリ等で通院中の方は、理学療法士又は医師にご相談下さい。

初診・再初診で当院へいらっしゃる方は、医師の診察を受けて頂き、治療が適応になるか判断させていただきます。

当院では衝撃波治療は運動器リハビリテーションⅡの一環として施行し特別な料金は生じません。（予約制）